



日本山梨県
シヨールジュニアースレー
氏

4212



514
A1013



日本近況論

近一近時ノ直歩

經濟勲賦ノ呈況

貿易漸ク移テ東方ニ盛ナルニ從ヒ政治之自ラ眼ヲ以テ
邦ニ注クニ至リテ其等ノ國ノ如キ往時ハ人唯其者ヲ知ルニ安シ
シモ方今ハ之ヲ政體ノ國ハ盛衰沿遷ヲ實ノ國民ノ
智勇強弱國力ノ盈衰ニ其富ヲ知シト欲ス往時ハ
細重ノ古實ヲ探ルハ其ノ故ヨリ出テ凡人民ノ起原ヲ
日學ルニ至意ニ歩リ學者ノ之カ國傳古書旧物信教ヲ
考ルニ往時ノ旧跡ヲ原ツルカ為メニコレヲ畢竟專ラ
文學家所攝ノ地タルニ過キザリヤ今ハ別々往時ノ其古

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

十卷 首

實ヲ考ふるハ國ノ之ヲ忘ルヤセズト皇氏更ニカヲ盡シテ今ノ況ヲ
察知スルノ務ナリ南愛銀行ハ以善ノ國ヲ如何ニ
易ヨ通シ給ヤ且如何ニ保之復ヲ期シ給ヤヲ知ラシ
政事家ハ世日或ハ萬國ノ生ズルアリコトヲ慮リ一旦後
急アリ果テ幾多ノ兵馬ヲ起シ給ヤヲ察テセントス夫ノ
サ弊西集開通ノ印ヲ設ヘ火輪船東往ノ盛ヲ致セシヨリ
極東ノ諸國モ亦政出各邦ト軌ヲ同フシ相共ニ道退費
轉スルトナレリ爾今以從東邦ノ變執我輩ノ信
頼シ給ヤ非ス其禍害ハ我ニ及レ其進歩ハ我ヲ
利スベシ

以諸邦中ニ在テ尤モ政人ノ注目ヲ致スモハ日本ヨ以テオト
日本ハ久ク外交ヲ修メ今知ラサル所トナリシカ近時俄駐改
革ニ着手シ慢ニ急就ヲ要セリ其故實ハ主權者ノ新

觀ミシテ苟ク之ヲ類ヲ求メハ遠ク伯徳大皇帝世ニ御リ其時
魯國ヲ以テ比セシニ皇ト皇民政出ニ在テ日本ノ實況ヲ
知ラシトスルモ宿書ニ散見セル二三記事一ニ由テ知ラズ
ニ非ス蓋シ政出若書此ホニ載スル所ナリ見ルニ淺淺
管見ホサラス世人或ハ猶日本ノ目シテ事ハ擾攘ナリ
奇異野粗ノ國トスルアリ若クハ法團ニ在テ一進歩アル
新代ハ虚實ヲ審ミテ直ニ之ヲ壹場スルヲ見ラザ
況ラ其信シ日本ハ既ニ今ノ開明諸國ト伍ヲ為ス者ト
スルアリ是ニ兩ナカラズ中ヲ以テサレト云フニ夫日本ハ
種々浴他ノ異ルト皇氏畢立ル本各國人ノ如ク其苦アリ
愚アリ今只焚ミシテ又寛大ナリ驕慢ノ為メニ進ハ其時ハ
理者敏ナリ而テ其世運改テ亦同ノ危亂アリ徑擲亦
同ノ問題アリ外ハ其變スル氏實用ハ固ニ依リ皮相ノ美ハ

ト
務
旨

遂に實際の兵面目ヲ掩フ能ハス今日ニ當リ猶ホ日本ヲ擯斥シ
偽坐政ヲ執ル嫌フノ頑民ト任セシケルヲ以サルハ明カナリト云
更始日猶ホ其儘クシテ其能カキタ全ク發達鐵磨ヤス
ノ所如ク目的多西政同業ノ開化ニ道ハ高キ幾多
ノ事月ヲ要スルヲ知ルヤ日本ノ起セシ事業ハ二三度
革ニ止ラレテ全ク其旧態ヲ蟬脱スルニ在リ清國ハ已チ
ホス政安ハ文ヲ開キタリシカ政治道學等一旧套ヲ重玉
守シ西丸ノ浸津ヲシテ四門ニ入ラサシメテ其如クヤリ障
固日本ハ之ニ及シニ其業細細様ノ外皮内ニ安眠セシラ候
旧皮ヲ脱シテサ壯ニ復シ以テ他國ト通交セテ其強ク我
輩ハ前篇於テ既ニ大異業ノ改テ平ヲ謀リシ國民ノ
性實ハ如何ヲ述ヘタリ此等痛ヲ執ルハ直ニ其大業ノ安
況ニ涉リ之ヲ道歩ヲテシテ前路ヲ擴ルハ妨碍ヲ奉ケ

其財賦經濟貿易政事皇況ハ国力開張ト如何
干俾ヲ為スヤヲ説キ而テ方今人心國勢ヲ以テ之ヲ察ス
ニ後未何ヲカカスマダ何ヲ患カ爾ルヤキヲ述ベトス

カ一節

茲ニアリ日本ヲ離ルニ十年ニテ今日再ニ來リ候ハ今日ノ東京ハ
旧西ノ都府トシテ其ノ如ク認ル難カル也新様ノ雜舎更々
ニ起リ工場ノ煙筒ハ突起天ニ在リ市肆ノ洋貨ハ光彩
目ヲ奪フ往時旁テナキ所ノ規式ヲ用ヒテ行ヒ且テ勇テナカリ
ニ目的ニ供スル建築アリ斯人ノ審判日本ヲ離ルニ方リヤ
外國ノ使ハ天皇ニ謁スル恩典ヲ以テカカリテ政事ニ迫リ衆
多ノ日子ヲ商議ニ費ヤセシモ客業一月ニ日ニ政事ノ任
傳スル外國人中上等ノ輩ニ行ルシ皇帝皇太后ニ謁シテ

ト
自

新年ヲ祝ヒシニ金刺ノ盛報ヲ著セル侍從之ヲ陛下ニ謁
ヒシニ陛下ハカク歎ク傾ケテ世礼ニ答ヘリ新人ヲシテ之ヲ目
撃セシメハ必ス愕然タルヤレ夫ノ袂中ノ洋衣ヲ指シ濶大ノ洋
袴ヲ穿テテ端幅ノ袴ヲ挾ニテ侍頭ニ徐歩スル行客中ニハ
尚テ西刀ヲ佩ヒタル武士アル見ハ更ニ層ノ驚愕ヲ煽ラ
ナルベシ而テソノカモ驚ククキハ官職制度ヨリ國郡ノ区
分ニ至ルマテ千種ノ新名ヲ用ルニ在リ其處民ニ平一カニ
心定ルノ後深ク眼ヲ事物ノ内面ニ注キ外相ハ斯如シト
思ハレ莫ク如何ニ改作アリヤヲ觀察セハ應ナク衣新ナレ
人心ハ固ニ依リ名を変スレ民行事ハ昔ニ同ク今日ノ日本人ハ
猶モ往時ノ日本人タルヲ見ルベシ是自然ノ理ニシテ直言
スルモ敢テ怒ルニ足ラズ所ナレ民改作ヲ行フノ人民ハ聞クヲ
好マス凡ソ其制ノ直ヨリ一日ノ成ルヲ為ス所非ス一詔ノ行フ

所ニ非ス國民ノ教化ヲ新セントセハ必ス其多ク奉月ヲ費ヤサ
バカラス人カハ奉月ノ初ヲ助ケルヲ必ズレ以テ之ニ代ハシ
開化ハ智ヲ智識ノ元素ヨリ成ル者ニシテ此元素ハ今日之ヲ
教ヒテ明日之ヲ必ズ成ル者ニシテ此元素ハ今日之ヲ
漸ク積ニテ成ル者ニシテ此元素ハ今日之ヲ
試ニ現行ノ改革ハ畢竟何等ノ主トシ出ルヤト問ハ日本
人ノ特性タル外美ヲ求ル自爾心ニ渾スルノ一言以テ之ヲ
其蔽フバシ此何ナル學要自爾心ニ渾スルノ一言以テ之ヲ
改作ヲ行ヒ是ニ巨万ヲ加フハ則チ之カガメナリ試ニ思ハ何
故ニ自用所産ノ段匹ヲ以テ製長シハ古裝ヲ棄テ元老官
ノ禮節ヲ新ニシヤ何故ニ大礼ノ日ハ下等ノ士吏ヲシテ
異様ノ里衣ヲ服シテ寒ニ堪ハルノ苦アコシムルヤ鉄道
建築ヲ先ニシテ道路ヲ後ニスルハ何リ小規模ヲ以テスルモ

可九事業ヲ官ウニ莫大ノ經費ヲ欲シサルハ何クハ其ノ問題
ニ各トモセハ他ナレハ人目ヲ銜シ業多ノ費アルモ偏ニ用ル
粧飾ヲ以テ政出ニ誘フセトスルモノナリト云ハシ、新學
抄酒、試驗ヲ為シ居ル時中ニ糧索シ新學ヲ修卒或ハ
程度、措置ヲ施スハ元來國家變革ノ日ニ在テ常ニ免レ
サレ所ナレハ之ト時ヲ同フスル人ハ向テ或ハ其息ニ適セサル
アルモ通ク此紛亂序ナキ行ハ後人ノ地ヲ為スモノナルヲ
解シ得ル尤ムカラス否偏執見タル免レ且夫今日此紛雜
中ニ在テ既ニ著ルルキ是事、道ヲナキニ非テ惟モ防弊ニ適
實ニ國家ヲ利スル政作是ナリ

日清政府ノ經營セルノ事、中ニ就テ先ツ横濱製紙廠、
設立ヲ考ケ備ハレ、誠ニ至當ナル事、何者是諸種ノ工事業
中曷旧曷大ニシテ又曷要ナル者ニタレハナリ、且創建ノ實ハ

千八百六十七年ニ存リ、而テ千八百七十二年一月マニ之カ長官長ク
シ我同國人ハエリニ氏ノ起ス所ナリ面積十八エクタールニシテ
女十七万メートン、平方ハ建築地ニ俾ル役スル所、工夫千二
百人ノヲ監督スルモノハ佛人三千名(ニ各ク技術士)日本人
五千六名、建築ノ經費、百四十万弗ニシテ、業出入大抵
三千万弗ナリ、其船廠ハカ等ノ巨艦ヲ容ルヤク
自國商船及外國船ノ用ヲ為ス、甚大ナリ、皇上帝ニ
幸シテ親ク新艦放下ノ儀ニ臨ンル、帝ニ次ナシ、横
濱ニ於テ亦一ノ工廠アリテ、造船場ヲ備ヘ、業初出、三万弗、
及フ頃者、極巨噸本廠ノ管理ヲ洋人ニ委ス、例ヲ廢シ、體
驗ノ如ク、之キ日洋人ヲ以テ之ニ代ヘ、遺憾トス、
江戸造船司ノ設置ハ千八百七十二年ニ存リ、佛國教師ノ員
タル大尉ルボン氏ノヲ起ス、旧水戸師ニ設ケタルヲ以テ、更

卜 務 省

名ヲ因用セリ全廠建築終ニテテ竣ハシナリトモ既ニ砲
架砲車馬鞍等一切砲兵所用ノ器具ヲ製スルヲ以テ
唯砲身ハ其之倣ナル銅ヲ産スル地ニ就テ別ニ鑄造
場ヲ大坂ニ設ケタリ本廠内ニ本工場アリテ日新ノ器
械ヲ備ヘ熔鉄場アリ製銃場火工場亦アリ製銃
場ハ千八百七十六年一月一日ヨリ開クヤカリシカ
外ニアルニ會シ世知ラ後マヨリ火工場ハ火工学校ヲ附シ
女規模ス一日ホクセルサ樂包ニ万箇ヲ製スルニ是レバク
此ニ能ハ水戸野園庭ニ沿フテ列築シ面積共ニ六十
エウタル芝草場七箇水車一箇ヲ備フ本廠ノ使用
スル洋人七名工夫ノ教ハエテ、整修等ニ應ジテ千ヨリ四
千ノ間ナリ本廠ハ猶舊橋匠ノ如ク兵役ニ應ズルサ
年輩ヲ募集シテ理論實業ノ二科ヲ授ケ以テ工長及

技術士ヲ養成セシメスナリ江戸ヲ距ル三里ニテテ十何アリ跡野川ト
シテ河田ニシテ某工場アリ大尉オハル氏之ヲ管ス所用ノ動機
ノ力ハ之ヲ貯フスルニテ二千五百馬力ニ下ラス水車四箇ヲ以テ
之ニ充ツ役スル所ノ工夫及火工夫百五十人一日火薬五百
キログラムヲ製スルニシテ外由兵備ヲ定モリカク大
築塞ノ印ヲ起サントスセ例員中佐ニシテ氏及大尉ハ
カシ氏ノ為セル所ニシテ改修果テ浩費ヲ厭ミ之ヲ實施
セントスハ工應サニ日本海岸就中内海沿岸ニ著
及スル
千八百七十三年六月ニ來ハ横濱ニテ間鉄道ノ往來ヲ開
ケリ又建築ハ英國ノ技術士之ヲ行ヒ千八百七十二年
一月マテハ猶ホ其營業ヲ監督セリ此鉄道ノ建築ハ
實ニ非常ノ経費ニシテ世人ノ言ニヨリハ平地二千八百メートル

里程ニテ三百萬弗(千五百萬佛)ナリト即チ政府の平均経費
ノ四倍ナリ往來の要路ヲ徑スルヲ以テ往來セシメ地ヲ一瞬
ヲ以テ經過スルハ兩者ノ民ニ在テ固リ快トスヤキ所ナリ氏官
業ノ成ルニ至テ工費ノ大ナルニ慮セズ且貿易の便ニ感陸
ヲ致セシメテ入集ハ大抵八千弗ニ達スルヲ以テ外神戸
大坂ノ間亦一線ヲ開キ雖ト五百萬弗ヲ費セリ里程ハ前
者ト大差ナラ一週ノ間入金四千弗トス又ヤウ京荷
大坂間ノ運送率ニ從テモ其初メ所ハ七日支線ノ
設ケ京新ト日本海トお通セシメ本線ハ屈曲シテ表
参ノ成ル中英國郡ノ平地ヲ過キ江戸ニ達セシムルニ存
物重ノ由地ノ今故ヲ案スルニ車運主メ備テ且陸運
本線ニ渡后シテ以テ之ヲ維持スヤキ支線ノ之ヲケルハ後
今此工ヲ了シテ成ラシムルニ未メ女益大ナルヲ必シニ候

電線ハ鉄道ニ先テ之ヲ設ケテ全ク日本ニ属スル一線アリ架シテ
長崎ヨリ箱館ニ達シ此ヲ蝦夷札幌ニ及フ改有ハ又ロイトル
社及カレートノーガンテレグラフ社ト結約シ印度又西別里更
ニ道ヲ經テ西勿椏間ニ通信セシム新便ノ法ハ又日本ニ
行ハレシモノミテ旧制ヲ改新セシハ唯郵便切手端書郵便
便ノ二者ニ在ルニシテ信料ノ廉下ニシテ傳達正務後々論ス
又手ナシ迅速ニ至テハ所用ノ方法ヲ以テ之ヲ併テ昂路燈ノ
雷々ノ脚夫ヲ配置シ相違作スルノ法ニシテ方今未メ他
考アリ
海上ノ通航ハ二方アリ沿海ノ通航ハ日本船ヲ用テ且割三三
年事ニ留テ考セシメテ網生字帆檣ノ四套ニ申リ迅速ノ
不順ナルハ一州ニ應テ海船ノ通販ハ日ニ生大ニ廻リ七海
船若干アリテ人貨ヲ各港間ニ運輸スヤキ政制衣ノ旧

外務省

船ニシテ如要者亦多ク
ト解スハ一大商社ニ合併セリニ其支社ハ政府ノ底ニ及ラ
ル子撫順上海函館ノ米船ト競ヒ至ニ運便ヲ減シ
上海撫順ノ里程ハ馬里塞孔ニ且位有向ノ距離ニ比スレハ
更ニ遠キヲ西ハ百俾ニテ渡航スルヲ得ルニ及ヘリ變彼是
共ニ疲倦セシ後米船社其船隻ヲ三隻ニ劣リ併テ
士官ヲ貸シタリ故ニ今日ニテハ日本投書早ヲ抑メル船ニテ
支那ニ販スルヲ得ルニ未運便ヲ増シタリト呂氏海
船四隻ヲ有ル會社モ商業キ多感ナラシテ損失ヲ
補フ能ハサルヤキニ幸ニシテ政府ノ之ヲ資助スルアリ政府
支那日本間航海權ヲ握リ自國船ヲ以テ政令ヲ制
信ヲ運送スルニ得ルベシ
道路ヲ閉キ運送スルハ移政府直轄ニ屬スル

ノ此ナリ政府ハ自ラ農工ヲ起テ千歩シ殆ト之ヲ独占スルニ
至テハ甚ク憾トスレ人民ハ先唱者ナラ或ハ資本ヲ欠キ且
人ハ安心セザレハ資本ヲ取用セザルニ世ノ常ナルニ以テ心ヲ
欠クニヨリ故テ自ラ起テスル者ヲナシ政府任官スル所ノ
土著ハ開拓使ト云ヒ畜産ヲ以テ主意トシ日農者米
人ニ工子ナラケケガロン世常事ヲ常トシレカ開拓任滿テ
去ル奉使根據地ニアリハ一ハ戸ニ在リハ蝦夷島中ニ在
リハ戸ニ在ル者ハ一ノ極軌田庄タルニ過キスレテ管治ノ極軌
ト稱セシヨリハ寧モ諸津ノ極軌ト云フニ何者費多クシテ
利少ナレナリ産所ノモノハ牛乳酪菜種子ノ類ニシテ
又耕作牧畜ハ試驗ヲ行フニ難重ニ在ルモノハ真ノ開拓
場ニシテ近時十年間行ハレ減墾中島島思ハルモノハ一ナリ
西ノナキ時ハ雨降ルガ粵邊地ニ就テ林藪ヲ拓キ巨万ヲ要シ

札幌ヲ建テ漫ニ都府ト称シ又強テ不叛ノ民ヲ移レテ地
ヲ耕サレシモ南テ食ハズノ境ニ至ニス十二里ノ海ヲ隔テ
大道ヲ開キ物産ヲ海岸ニ輸送スルヲ穿テシモ輸送ス
ルキノ物産ナレバ相館ノ直傍ニ七重障ヲ築テ一ノ植栽田ニ
テ役ケ新式ノ犁鋤ヲ備フシ且生ニ所ノ利ハ所用ノ
馬匹ヲ養フテ置ス此等ノ経費合テ三千万俵ニ及ハリ
斯ノ如ク規模ヲ大ニモスレテ及テ勸農ノ功ヲ成セシモノ
アリ是ハ戸ノ北東ニ位スル廣原ヲ開墾セシメナリ村
落亦遠ニ起リ政府ハ自ラ之ヲ監督シ満原ヲテ利ヲ
養スルニ及ビテナリ米ハ生セスト莫ク今日米ノ農夫ヲテ
リノ耕作ヲ廢セシムルニ日本ノ農夫モ亦他國ノ農夫
ト同ク皆旧法ヲ墨守シ家産已末全國ノ收納一百万
石ヲ増スニ及ラス牛ハサレト莫ク皆少ク之ヲ耕作ニ

用フ驛及驢ハアルナレバ汝ノ草秣モ牧羊セサルニヨリテ
下甲ニ屬セリ此草秣ハ牧羊ニ適セスト唱レテ牧畜
ニ長スル者ハ必ス^也以テ業ヲ開キセシト云ヘリ山羊ヲ牧シ
ゆルニ至テハ疑ナシ牧畜ノ法開ケルニ及ク真成ノ進歩ト云フ
バク曲厩富ヲ増スルニ量ナルバレ農厩ハ富ノ尤モ大ナル者
ニシテ空固者^也蓋之ニ異ナカルヤ
日本山林ノ富ハ其ルバガニストモ此方今ニハ放棄シテ廢リ
佛國技術士シエボン氏ハ近キ管林ノ制ヲ導クニシテ草ヲ
擔任セリオノ^也ハ車運ノ路ナキニテ樹木ノ地ニテ互ニ
之ヲ斬代細断シテ水ニ浮ヘテ流下セシムルノ外他法ナキ
ニテ^也建策ノ材ハ^也山嶽ノ傍ニテ近キ易キ處ニ
ノ^也就テ代リ出スニヨリ空欠ヲ致スル速ニシテ而テ樹苗ヲ
植ヘ水害ヲ防クノ處置ヲ施スナシ^也蠶桑ノ如キハ林全爲

十
務
育

備下岳氏道路之ヲテ斧斤之入ルヲス今山林ヲ監視ル
法甚ク奇ナルヲ知ラントセハ樹木ヲ点檢シ其大小ヲ別ルヲ以テ
見ルヤシ此業ハ三言ヲ要シカ一日ハ先ツ工夫ヲシテ林中
散布シ細線ヲ以テ各樹ヲ傳セシムカニ百ハ監察者
俟ノ有無ヲ点檢シカ音ニ及ニテ以俟ヲ解キ樹ノ大小ニ
從テ類別シ而テ後之ヲ計ハ筆ヲ

製糸ノ工業ハ日本ニ在テ甚ク必要ナルヲ衆ノ知所ナリ
洋式ニ倣テ製糸法ヲ改良セカカブリテ氏ノ徑管ヲ
以テ製糸場ヲ富岡ニ設ケテリ年額三百萬圓ヲ具
所製糸ノ極テ精好ナリ其長政存ハ人ノ忠告ヲ用ヒサ
リシニヨリ毎年産多クノ損七ヲ致シ富岡ノ糸ハ里
曰クニ此テ佛國最良ノ糸ト曰フ時價ヲ以ルノ喜言アルモ
以損失ヲ償フニ足ラズ此外模範製糸場江戸工部

事ニ起リ工部政ノ管者ヲ受ケテ良法ヲ以テ行ヘリ他工
業モ亦同ク政存ノ官所或ハ資カル所トモナラズ政存ハ
紙ヲ抄シ瓦所ヲ製シ坑工トナリ治工トナル其ノ近傍ニ
於テ煉瓦ノ烟筒高ク聳ルアリ近々之ヲ見テ輪奐
聖堂尤も金庫場ナリ其建築ノ切抜ルニ及ヒ斯ノ妙
ニシテ銅ヲ以テ其價甚高ナルヲ思ヒ候ニ及ニシテ
製作法亦驗場トナセリ此等事務ハ多ク工部省ノ
統轄ニ歸シ法省ハ江戸及諸縣ニ於テ政人百二十六
名ヲ使用ス兵人亦多ク燈臺其室ハ特ニ日本海岸ニ
在テ必要ナルモノニシテ亦法省ノ所轄ナリ大坂造船
寮之ニ同シ岸寮ハ燈臺室ハ特ニ建築ナシ其原價物
之キニヨリ鑄造ノ印ヲ傳ノサルヲ以テサリキ設立ノ経費ハ
五百萬佛トス此等業ナラズテ大坂右所轄ノ神

ト
務
自

幣寮之代々シテ嗜好

此等事業業ハ由ナニ成ス所ハ力財貨又莫大ナリト是臣國業
ヲ生財上ニテ係スルヲ其ノ中ニテ之ヲ統轄施行スル元ト
諸事ノ意アルヲ以テ生スル所ノ利ヲ多クサテ其ノ成セ
母屋ノ百一ニハス畢竟備ニ外國富強ノ秘訣ヲ奪
ハト致シテ其ノ果用ナリナル機軸術ヲ採リテ之ヲソ
主用ノ厚貨物ガ有セザル國ニ施ス者ノ如シ諸ノ南洋ノ
改良ス事事業ノ外ニシテ最近最要ナルノシナニス上ニ改存
ニ于スルモ、即ち道路ハ及テ之ヲ急カセニスルニ似たり。江戸
止備ニシテ道路ヲ降クハ、車ヲ通スバキ者サウ之ヲ通ス
マキモ、スラ雨コトハ車程多ク難ク変テ泥淖トナル運脚
馬ヲ用フルノコト而テ州郡中ニ僅ニ細徑ヲ有シ相通ストハ
シヨリ及下相隔ツトモ種々修シテ馬スラ通セサルモノ

下り夫道路ヲ改修スルハ國大業ニシテ殊ニ山國ニ在テ妨礙多ク
又修々材料ヲ欠クノ地サナカルヲ以テ更ニ田莊ナリト是氏
國外ノ上道ハ之ニ由ラレテハ農業者曠山山林ホ以テ根本ノ
改良ナキ間ハ決テ利ヲ生ズ。マカニス不幸ニシテ國家経費
既ニ多ク改存ハ地方官令後ノ機軸ノ善具ニ從テ以事業ヲ
起ス能ハス猶ホ不快ヲ思ヒテ是國業者作家業ノ格ナリト思ヒ
サルヲ惜ムセ言ニ曰ク、物自往テ世界ノヲ歴遊テ首都會ヲ
大村ニ大村ヨリ小邑ニ好路ノ以テ往來ヲ通スルヲナキ、國ハ互ニ
之ヲ目スルニ弊ヲ去ラテ以テ之ヲ治メバ、ト改存ハ運輸ノ便ヲ以テ
州郡ニ及ハシマス、防路ノエヲ以テ江戸枝度已下ニシテ關
隘ヲ燒キ大層ヲ掃ハ、或ハ工場ヲ起シテ以テ開化ノ戲ヲ
狭サカシ劇場ニ廣ゲリ

俾ク日本ノ改革ヲ注目セシ人ハ、西一千八百七十三年、英皇大正臣、
團ノ後、御修一変シル東外面、登露セサレ、帝ノ此ナレ方
向ニ道テ、ヒマサルヲ察知セシナルハ、本大臣ハ、政令ヲ経歴シ
タル後、徒ニ形而下ノ事物ヲ模倣スルハ、開化ノ皮相ナルニ
思ハス、其モ、其精華ヲ、^ヲハントセハ、先ツ人民ノ智識ヲ一
洗シ、後事進カ、^ノ種子ヲ下ニサレラハサルヲ、^ヲ悟レルカ知シ、
未外、修、^ノ事業、建築、工業、ホヲ、^ヲ務ム、^ノ修、^ノ成、^ノシ、^ノホ、^ノ各
種ノ教育ニ、^ニ従事セリ、本大臣ハ、使臣ノ日、^ノ各、^ノ團、^ノ待、^ノ遇、
^ノ積、^ノ蓄、^ノキ、^ノヲ、^ノ以、^テ未、^タ各、^ノ團、^ト伍、^スル、^ハ其、^ノサ、^ルヲ、^知ル、夫、^ノ在、^ノ團、^カ
^ノ年、^ノ約、^ノ四、^ノ五、^ノ際、^ニテ、^ハト、^ノ即、^チ、^ノ内、^ノ地、^ノ開、^ノ通、^ヲ拒、^マサル、^ヲハ
スト、思、^ハリ、^而テ、^日、^毎、^ハ、^已、^テ、^快、^シ、^時、^ヲ、^付、^ケ、^往、^々、^字、^術、^ヲ
^傳、^マ、^テ、^後、^世、^ヲ、^付、^ケ、^ル、^秘、^傳、^シ、^ト、^皇、^氏、^國、^用、^國、^用、^ヲ、^帝、^ニ
^怡、^モ、^帝、^ノ、^才、^ハ、^多、^猶、^ホ、^數、^年、^ノ、^勤、^苦、^ヲ、^忍、^ハ、^シ、^ト、^ス、^ル、^ノ

其アリ、是ニ於テカ、工事業家、お、^ハ、^遠、^キ、^テ、^教、^師、^ノ、^世、^ト、^ナ、^リ、^政、^育、
他日、^外、^師、^ニ、^就、^ク、^若、^ク、^ア、^ラ、^シ、^ヨ、^ハ、^昂、^今、^早、^ク、^保、^傳、^ヲ、^置、^テ、^エ、^カ、^サ、^レ、^ウ、
悟リ、^ヨ、^ラ、^カ、^ヲ、^教、^育、^ニ、^専、^リ、^用、^テ、^リ、^若、^ク、^以、^テ、^措、^置、^テ、^シ、^テ
早キ十年、^ニ、^シ、^テ、^辨、^シ、^今、^日、^ノ、^如、^ク、^廣、^ク、^ナ、^ラ、^シ、^ハ、^實、^ニ、^國、^ヲ、^益、^福
ナリ、^シ、^{ナル}、^ハ、^シ、^我、^輩、^ハ、^若、^ク、^經、^テ、^教、^育、^ノ、^以、^テ、^下、^ニ、^記、^ス、^ル、^ハ、^大、^ニ、^喜、^ビ、^テ
所、^ナ、^リ、^且、^同、^或、^ハ、^教、^育、^ノ、^以、^テ、^下、^ニ、^記、^ス、^ル、^ハ、^大、^ニ、^喜、^ビ、^テ
及生徒ノ勉強ニ至ツテハ、^間、^然、^ス、^ル、^所、^ナ、^レ
小学、^ノ、^教、^育、^古、^来、^見、^テ、^ノ、^常、^ニ、^務、^メ、^テ、^所、^ニ、^シ、^テ、^他、^國、^及、^テ
サ、^レ、^ル、^地、^位、^ニ、^違、^テ、^リ、^何、^者、^学、^校、^ニ、^行、^カ、^サ、^ル、^規、^定、^事、^ヲ
信、^守、^ラ、^解、^セ、^カ、^ル、^或、^人、^サ、^ケ、^レ、^テ、^リ、^唯、^テ、^教、^育、^ノ、^甚、^ク、^マ
接、^テ、^テ、^テ、^而、^テ、^若、^ク、^其、^大、^抵、^皆、^漢、^字、^ヲ、^以、^テ、^記、^ス、^ル、^ニ、^ヨ、^リ
^ハ、^字、^ヲ、^卒、^業、^セ、^シ、^者、^モ、^自、^ラ、^若、^ク、^就、^テ、^道、^徳、^ス、^ル、^紳、^士、^ノ、^サ
ル、^ハ、^患、^{アリ}、^中、^学、^ハ、^往、^時、^七、^限、^リ、^タ、^リ、^シ、^カ、^今、^日、^ハ、^諸、^人、^之、^ヲ

ト
券
自

俗ノ世々也 予人王亦学ニ就クヲセシム 教師ハ亦一僕字
ヲ学フヲキス 是大ニ日ヲ費スノ患アリ 若僕字ノ
廢スラハハ一文直タルヤケレハ 方今テ行ハレテ
著セリ 僕字ノ外又外國語ヲ教フ日亦教師ヲシテ
之ヲ教ヘシムルモノアレハ 要法トスベシ 官学校ニハ
外國人ヲ用テ官校ノ大者ハ 江戸在リ 漢字校 開成学
校トシテ 漢字校ハ 我國中學校ノ 格蘭ソル科ニ當リ
開成学校ハ 五マニテシテ 比マシ 佛兵獨ノ語ヲ教
之ヲ以テ 無形物字 実理学 教理学ヲ授ク 近來学科ハ
英徳ノ二語ヲ用フヤキ人令アリシヨリ 独學ヲ学ブ者ハ
已ウラハス 醫術学校ニ入り 佛語ヲ学ブ者ハ 片学校或
兵学校ニ轉セリ 上等ノ科目ハ 我ニ可テマケル
スベシアル科ノ 譯目ト 英國法律トヲ教ヘ 又 鑛山学

校ノ 豫備ヲ為ス 亦校ハ 皇學校ノ 尊称ヲ用ヒ 其再開
校ノ 日 皇帝 臨幸アリテ 教師 三十九名ニシテ 政
人 三十五ニ在リ 生徒ハ 寄宿 三百四十九人 皆 様ノ 指
ヲ着セシメ 書籍 文庫ヲ 備ス 我國ノ 書ヲ用レテ
此ニ入ラシメ ハ 字力 及テ 西語 並ニ 國語 生ニ 下ルモノ サラ
サルヤシ 本校ノ 外 東京 及 他ノ 大都會ニ 政語学
術ヲ 教フル 亦 學校 甚多 我 國ノ 學校 所用ノ
書籍ハ 皆 漢 教 師 經 漢 学 教授ノ 区域ハ 日ニ 是
偏ス 是 亦 之 中 之 務 事 事 漢 字ハ 之 自 國
語ノ 教 ヲ 爲ス モ ノ ナル 全ク 之ヲ 廢スル 餘ハ サルモ 務メテ ナ
年ヲシテ 旧学ニ 於テ 疑セシメ サルヲ 爲ス 是 唯 他 國 手 下
スルモノ ナレバ 學之ニ 代ハ 事物ノ 變 理ヲ 究メ 精 意ニ
之ヲ 觀望シ 條 理ヲ 推シテ 貫キ 俾テ 明カニ 之ヲ 教フニ

十 務 自

十一人別 實科教師之附屬 共ニ初等及專門
教育ノ學成理學化學機械學制衣圖學建築
電信金石學地質學農學ヲ教フ向目造廉
シク人員ノ少キニ比スルニ似テリ 修業年限六
年 廿二年ノ本校附屬ノ工場ニテ實業ヲ修メル本
校ノ鑛山技術士造師機械師測量師建築家
作ルカガハニシテ 江戶諸校中ニ在テモ規模整頓スルモ
トス 本校ノ外鑛山學校アリ 生徒三千名 獨逸教師
置カラス 其次ハ 佛蘭西及 ~~諸國~~ ^{諸國} 附屬ノ學校ニ
已上諸校ノ學校ニ生徒皆 勉強ニシテ 學ヲ所ヲ化スル實
績クマシ 強記ハ 律書ノ天皇ニ十九カ如シ 海峽ニ之及ハス
ト 墨氏 西洋學法ヲ施スニ於テハ必ス 論理ノ性ヲ為スニ至ル
ニシテ 此輩ノ他日ノ學識ヲ以テ 國家有 應用ノ人トナル必キ

且生計ニ因ハ事進ミシテ 廢シ 或學ヲ後管生ノ目的ナキ
ヲ以テ志ヲ折ク者多キニ 真ニ惜ムルニシテ 此輩ハ 教師軌學
校 庶務學校 善生徒卒業後 立身ノ目的 確キル
モノニ似ス 官職ハ 新中 職官ハ 支那ノ位階アル者
子ハ 官位 秘恩或門地ニヨリテ 之ヲ得バク 他種ノ事
故アリテ 恩者官ニ就キ 學者 師ニ因テ 辭アリ
女學校ノ進ムモ 亦以 畢業ナルモノトス 妙齡 皇女 皇
子 勸業 師 軌學校 建築 學ノ 私立 金五十四
給シ又 親ヲ 開業ノ式ニ 臨シテ 勅信ヲ下セリ 且 素文
可ク 切實ニシテ 本校ニ 進ミ 昌成ニ 趣キ 女子 教育
化 全團ニ 布クニ 及ニ 一ヲト 本校ハ 全團ニ 歸人
之 附屬 私立 學校 日々 増加シ 亦 全團ノ 女教師 延
者多シ 女子ハ 官位 外國 語 就中ニ 英語ヲ 學ブノ 士ニ

十 務 自

又ヤシク学ニ其業ノ專門モ之ヲ包テモス。而シテ其業ノ場ニ
テ其ノ生徒ヲ入ラシメテ新學ノ材ヲ得ルモ亦其ノ業ノ場ニ
至ルニテ教師ニ止テ之ヲ教メシム教師ハ其ノ業ニ止テ其
学校ノ規分ヲ踐ミ其業ニ止ルナリ
斯ノ如ク其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
師中ニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
多ク其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
人カ日子ヲ費ヤスハ疑ヒナシ。而シテ其業ノ場ニ
ト云フニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
モ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
此ノ如ク其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
既ニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ

國家ニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
モノナリ。其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
師ヲ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
亦夕ニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
異ルモ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
中ニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
及テ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
致スルノ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
正當ニ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
必スヤ其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ
其業ノ場ニ止テ其業ニ止ルナリ。而シテ其業ノ場ニ

十
自

熟知の語ヲ是レトスガニ又一世ニ六會カレシ難キ方法ヲ
要スルヲ試シ會フテ終ニ才ヲ教壇ニ上リ人ニ
傳ヘ者ナラズ亦一時同ク凡ヤ日洋語ハ分折シ
便ナラス實律ニ之ヲ思成ニ難シ新加チ語ヲ以テ
解ク性理學靈學論者等其理學等ヲ教ヘ
テハ其ヤ是レトク疑フベシ語學家ノ非キ日本
律ハ大支其ヤヲ為セシ後ナラハ洋同ク凡ノ具トナリ
難シト思フ若キニ

我輩キ多ク兵學ニ備及セザリシハ他ナシ上文ノ批評
ヲ下サシテコトヲ教スレテリ兵學ハ其業スルアルノミ
其道ニ長スル非キ、云評ニ其レ皆曰ク日本人ノ慄
慄、我ニ事ナレバ把陣ナカリシニ何レ能ク速シ
世世兵學ノ規必ニ

滿蒙ル紀律ヲ守ルニ至ルヤトテ之ヲ感モカクヤ日本軍用ノ
少戦ハ諸將アリテ之ヲシフニド、スナイドレ、シアッスホー
ノ甲ヲ大砲ハ徑四ノ野砲砲及少砲發砲ニシテ細製アリ
軍裝ハ皆ト我國ノ制ニ倣ヒ初色ニ章ニ差アリ、官級ハ
全ク同シキハ七千六千一月公江戶成兵ハ將軍
白上旗伏見宮ノ前ニテ整列アリ、式ヲ行ヒ觀望ハ
觀ルカ軍裝ハ新製スルヲ目録ニセリ、其柄、等
次、番次ノ程細多ク著セテ、折ノ如キ功績ヲ成ルハ
卷ノカニ、強當苦ニヨルモノニシテ、其次ハ
佛政有キ、軍政有キ、用ニ無セシ、陸軍教師ノ印ト云フニ
千八百六十七年、兵ヲ佛國教師ハ、兵制ノ基礎ニ
テ、其業ヲ、再ニ教師ヲ起テ、其業ヲ
修テ、首長ハ中佐マルゲリ、代アリシニ千八百七

夕 務 省

夕 務 省

十四年中佐三三氏之代り教師ハ兵士ニ実業ヲ教ふる
ノシテス 諸科ノ上下ニ理備ヲ教日授ス
少教師ニ与ル日本ハ自ラ教師トナラニ其地ニ可成ル
其江ナニ於テ受ケル教ヲ修繕ス各年若社ニ面兵
隊ハ江ナニ其子軍使官廣原ニ野営陣営ヲ
由シテ備ニ大ナル隊舎ヲ築キ砲兵ノ射的場ヲ
築テ演習技ニ修マサシレル及ウエストポイントノ割ニ
做ル兵学校アリ其任官ハ^ルシタカ氏管理ハ大尉
ヒエイヤルン及パルサ氏之ヲ御ケ合格ノ生徒ヲ募リ
ニ身ニ上修業ノ後小尉ノ位ヲ授ケテ後セシム方今
初年生百五十名二年生百五十名教師ハ八日
本人守中尹名仙士名五名下士三名共ニ實業
修繕ノニ修 又授ク陸軍教師及首長ハ

也、外國教師ト異リテ言行ニ付從ハ、ニ非サレ兵
國ノ士官ニシテ位階アル部ニ成ラテ自ラ推力アリ其
言他ニ比スルハ行ハルモノ多クキニテ即チ失テセルト亦多ク
日本兵ハ出テ台語ニ措カシテ而テ亦ニ畏ル
又愛敵タシ障ト我ハカルヲサリキ日本兵ハ
^{外兵ト} 持柄ヲ負ルノ機ヲ待ツモノ如シ未ダ
知ラス果テ修繕ノ際整テ爾トテ多クヒ是ニ我ニ
修^ハラモカニ勇ルハキヤ元來ヒ是ハ兵士ノ勇也
^{士官} 修繕ノ機未ダ以テ修ヲ必スルニ是ヲ必スヤ又修備
修ヲ先ス院智直ラハルヲ愛スルモノト又且ニ我非
カ親臨セル生業ニ由テ知所ナリ日本ニテハ修備ノ職
ヲ専リ將帥ノ任ニ在ル者事ヲ實臨ヲ修シ持柄ヲ
其石ニシテナルナニ是兵士修繕ハ且テ之ヲ修キ日本ハ且今

事務

既、守園ノ要員ヲ有テラ何レ、外敵ニ之ヲ侮トシテハ
ルベシ、常時ハ兵額ニ下五千人徴兵ノ新法ヲ實施セハ
大ニ其數ヲ増スラセシメ、此法ハ後文ニ論セントス
海軍ヲ興スハ陸軍ニ比シテ、常ニ歲月ヲ要スルモノナリ
海軍ノ学校ハ英國ト名之ヲ司トシテ、所務ヲナシ、南廷
ニ在リ、教官及副官合テテ三十人、生徒二百四十名外ニ
海軍歩兵、若クハ隊アリ、艦長教官ハ親ラ官艦ヲ
指揮シ、生徒ニ宿舎地、飯運ヲ、試シシルノ任ナシ、此件ニ
干シテハ、海軍及テ人ヲ信スル、深ク田事ヲ要スル、
ナルヤ如シ、是レハ海軍ノ要員ニ隻艦、廣ニ其レリ、是
校園、造船廠等ヲ造ルカ、ツトニテ、英國ト名
之ヲ指揮シ、生徒ヲ、東テ世界ヲ、周スルノ路次ナリキ
日本海軍ノ力ニ及ス、其ノ苦ムハ、軍艦ヲ、米國ヨリ

ト、トニ守ルトキ、スル、軍艦艦ヲ購求シ、又郵船ヲ買テ
運送船トセシト、兵額、定額、金サフテ、軍艦艦、
十六艘ニ、足ラス、中、甲艦、一隻ノ、
立上ニ、托テ、モ、教育上ニ、托ケル、カ、カ、
且、試験、艦、艦ノ、操、艦、ヲ、施、ス、キ、キ、
定員、規模、アリ、テ、決、行、ス、改、革、ト、ハ、云、ヒ、
和、同、セ、ル、ヨリ、官、衛、モ、此、因、セ、ス、又、改、作、ヲ、
ヲ、噴、ス、ス、キ、キ、キ、キ、キ、キ、
應、セ、ル、能、ク、以、キ、キ、キ、キ、
刑法、民法、政、法、等、政、人、ヨリ、之、ヲ、見、ル、
欠、典、ノ、制、禁、若、刑、名、甚、キ、以、テ、我、
面目ヲ徴スルハ、大ニ我カ、道、義、ニ、及、ス、
ル、見、テ、猶、ホ、及、シ、カ、ル、
日本、人、他、ノ、忠、言、ヲ、用、ヒ、
後

十
務
省

藤の巻テ改作ヲ題シテ是レ本件ヨリ七年ノナカルベシ
文化ヲ同セザルニ團交ヲ通スル時ハ常ニ其ノナリ
條事ノ電馳シハ難シ神馳スルヲ云ふ時ハ其明
證ニ指シ若クハ認ムル事ハ法律ハ早ニ人心上ニキリ
器工ノ如ク人ヲ指スルカアルナシ民權同ササルニ團
間ニハ共通同用ノ通規ナケル比較ノ便ナシ其國ノ
民一事ニ於テ敗リ西人ハ必ズ其國ハ日割國俗ノ
他ニ倭人ヲ主唱シテ居セザルモノナリ我輩ハ前篇
ヲ於テ慢劣ノ法ヲ大畧ヲ陳セリ方今同法地ニ墮チ
之ニ屬スル制度モ其ニ廢シ今ヲ亂雜ノ法ヲ現ヤリ
我輩ハ府テ其安多御ヲ細記セズ唯一言スル日
方今ノ形勢ニテ其首ニヒカ格ヲ尚フノ政人ハ其
以是法條ニ指テテ皆ヤ北是平夫ノ外人ヲ

制スルニ自國ノ法ヲ以テセントスルノ如ク其後更ニ一步ヲ
進メテ

是レ二三ノ節目ハ改良ヲ經スルモアリ司法權ト行政
權トヲミテト致シテ今ヲ明別スルニ及ズル點ハ兩
院ノ職務ヲ分ケテ私ニ其端ヲ開ケリ惟時ハ縣官
法官ヲ兼ハシカ別ニ法官ヲ置キ太守主縣(縣官
我國ノ必ニ廢ス)ニ初言裁判所ヲ設ケ其上ニオホノ
審判權ヲ設ケテ四箇ノ審判所ニ委シテ之ヲ以テ
全國ヲ分テ管セシメ又年々々々、審判官ヲ差シテ巡廻
裁判ヲ為サシム多ク其司法制度ノ草規ヲ畫用セント
民權保障ノ制ヲ以テ尚キ早ニ設ケルハ當テナリ
民事刑事、行政法ハ其我輩カ上常ニ必要ナリト
スルニ望ミ、俾テ其例ヲ欠ケリ此審判院ノ上ニ最高

審判より大審判に上り且目的ハ千八百七十五年十月廿
 八日ノ法ニ見ル擬律ヲテ全国一齊キラシムカガナリ是
 我西國審判ニ類スト雖氏之東法律キ多備ハシキ
 ルヲ以テ善ニ不法ノ審判ヲ破毀スルノキマ又不肖ト
 見做ル審判ヲ改スル任テ常ノコト惟モ才ニ善ノ
 審判權ヲ成スル法ナリ事度ノ審判例ヲ續クニ久シテ
 ハンドラト云々英國審判ノ慣例ノ如ク審判慣例
 ヲ成スニ及ビテヨク也刑律ハ新律頒布ノ以テ
 改正シタレモ其法典ハ毫モ學問ナキ精神ナキニテ
 後來新法ヲ制定スル試驗準備スルニ違キ新
 法ハ方今起草中ナリ罪犯ヲ区別シ刑名ノ善惡ヲ
 撰定スルヤ等至急ニ事案ニ就テハ近世ノ
 新編トシテ地方ノ旧説ト和スルコト也

國家タル者今律ニ至テ酷ニ及シ或ニ過度ノ法ヲ設ケハ
 或ハ可ナキナルニ似タリ後世法ヲ修ムル國人ノ死ヲ罪
 ニ併テ其心ヲ正スルカ如キハ人獨テ目シテ以テ空論トス
 然レモ又サズ獄ノ損軌ニヨリテ亦房獄ヲ設ケ以テ
 法務旧制ヲ裁セシハ一律外トシテ之ニ違フ事案規
 ヲ設ケルノ弊多クナリ或ハ兇賊ニ類スルモノアリ
 ト雖口以テ大ニ西人ノ取ツマキ外行ヲ禁セシトスルニ意
 ヲ見ルヤシ雖言ハハ公儀ニ於テ浴室ノ戸ヲ開放スル
 ノ林示粘粘積ニ違フ醜儀ヲ現スル法事等ノ如シ
 人民國有ノスル之カ多ク病下ト雖民羞恥恥ノ俗
 之ニ事リテ長ス或ハ中ニ固カク觀シト教スルノ
 准容ニ三里ヲ控テ内地ニ入ルニ違フ事案規
 グレシトシテ全體ニ見ルハ新法ハ多ク地ニ行ハルニ

外務省

至ルヲ数次ノニテ亦要シ居ルハ却命ニ行ハルモ四五
里ヲ隔ル村首ニ行ヒサレモ、比々皆其ノ體長ハ、数
年ノ新、良法ヲ奏シ凡ソ多ク民女子ヲ其方厚、
士要リ之ヲシテ役内希儀、女子ガコラント存ニ行キテ
昔毎ニ以テ、此ト密存キ以、難ヲラシスルノ契約ハ、切
無知、名義、一ヲ令セシモ、懐望ハ、改革ニ務チ、愛
臨ノ契、四ニ依ルノ数ナリ

政府ハ、柳ヲテ、坐要、九、臣ヲ、臣タリ、是、兵、役ノ、片ニシテ
後、内、兵、役ハ、士ノ、お、権トナリ、夫ノ、藩、臣ニシテ、封、建ヲ
志、ウ、非、事、一、シ、テ、以テ、兵トス、キ、割、成ナリ、レ、ハ、或ハ
旧、主ヲ、思フ、有、ル、キ、一、國ニ、報、ス、ル、心ニ、過、ル、者、サ、カ、ラ、ス
兵、馬ハ、女、實、旧、法、存、シ、官、握、ニ、在リ、否、フ、干、係、ヲ
後、七、年、日、物、ヲ、キ、政府ハ、千、八、百、七、十、二、年、十、二、月、ヲ

以テ薩侯ノ異條ニ留ルシ全國必指兵役ノ由ヲ表セリ
薩侯ノ異條抗抵又々々新法ノ施行ヲ沮メシカ即
今再ヒ之ヲ行ハントスルカ如シ此改革ハ、官ニ人民中
尤モ壯健ニシテ且後備ニ易キ徒ヲシテ兵トシテ用ル
テラス、必ス又政府ヲシテ不平ノ徒ヲ割置スルニ足ルキ
咸カヲ考セシタシ、千、百、七、十、四、年、勇、數、丈、隊ノ、士、官
兵、卒、共、三、萬、ヲ、修、リ、官、ヲ、去、テ、又、徒、ニ、投、シ、或、ハ、之、ニ、應
ヤルカ、如、キ、一、ノ、後、タ、ア、ミ、ル、ヤ、レ、新、法ノ、條、言ハ、能、ハ、三、
モ、ノ、アリ、テ、日、常、~~兵~~、~~令~~、~~ニ~~、~~用~~、~~ス~~、~~ル~~、~~虚~~、~~飾~~、~~ノ~~、~~浮~~、~~詞~~
ニ、數、セ、ス、女、文、ニ、ヨリ

我國ノ古制 全國皆兵ナリ 乱アリハ天子親ヲ
軍ニ將トシテ出ラシ居リテ兵ニ克テ乱定シハ
後里ニ生ル帰ニテ常職ニ就クニ高祖時未ダ

十
卷
首

武士アラ。後世武士たる者起り傲慢坐食し良
民ヲ殺スモ敢テ官司ニ解解スルノ事ナシ中
道王獨徑ヲ解中解解言言言言言言言言言
王政古之後し人民こよんこつ権限自由ヲ以テ
ヤリ今日ニ仕テハ實度國ニ對シテ皆同丁義
務ヲナキハナシテ東亞血脈ト稱スルモ
吾人ノ身ヲ推テ、國ニ報スルハ即チ公室ヲ
防テ自己ヲ守ル所以ナリ故ニ凡ソ國民ノ
義務ニ干奉ニ滿ん者ハ姓名ヲ徵兵簿ニ登記
シテ其身ヲ日直ニ起テ之ニ應スル也
我輩軍人此篇ニ於テ是事開化ノ全面ヲ學し出サント
セハ此ヲ記スル所ナシ他ノ可ク高木多ク救世工業物
産善所論スルモノニ係ルト云レバ我輩軍人ノ主業ハ

此ノ外交ノ開ケレテ行ハル其歩ト將サニ行ヒトスル
モノトノ大綱ヲ示クニ此ノ如ク方今日存ノ我ハ時未ク
至リサルニ早ク先ヨリ看ミテ後セト致シ幾多ノ妨碍
有テ無用ノ苦勞多シ又兎戯ニ稱シテ試テ見ル
テ以テ皇王張振起ヲ謀ルモノナリ而テ此業ヲ行フヤ政
治ノ模範ヲ鑒戒アリ又ツ忠告アリ之ヲ見信託スル誠
意ハ皆ケレハ之ヲ採施スルノ見識ハ明カナラズ
抑此業ハ先所進行表シ知ラス日年ハ此何ナ
日事及ニ在リ此何ナカカリヤ此何ナカ外援アリヤ
此何ナカ内援アリヤ且ツ民智ハ此大覺ヲ達スニ至ル
是我輩軍人將サニ論セトスル所モノナリ凡ソ一國ノ人民
猶ホ病者ノ如ク死生ノ決スヤキ時如ク日東ルコアリ
此
時コナリ醫學師朋友ハ吾等軍人ヲ或ハ死ヲ

此レ或ハ生ヲ... 病者ノ... 力... 以テ此...
ヲ過ルニ是ルヤヤ否ヲ知ラシムル一ノ常情ナリ

オ三第

日本全国三千八百萬ノ面積二万三千二百廿六方里平
八百ノミリノトル平方ミレテ字五疊ニシテ外ニ三行アリ
郡守村郷六万三千二百五十九人口三千三百万是近守
ノ所管并ニミルモノナリ然レ國中山多ク平路ヲ難レ山ニ
入ル時ハ荒蕪無人ノ地多ク見ルニ人口漸多ク稠密ナルヲ
信ニ難シ耕地ノ面積ハ未ダ測量ヲ終スト雖氏産スル所
米三千二百一石ミレテ工根千六百一十五万石ナリ税関ノ
米六千八百七十五年ニ於テ百五十万弗ニ及ヒ之ヲ降ク
時ハ地租ヲ以テ米八ノ大五トス其竅土地ノ純益百ノ
三十五或ハ五十二ノ高クヲ望ム且不平ナルヲ知ル
バシ租得ノ平ヲ望ムカハ全國ノ版圖存ヲ作ルハ必要ナレ氏佛國

外務省

多ク測量ノ方法ニ富ムモスラ猶ホ妨碍多ク見ルニ國土廣
疎ノ精剛未タ具ス尺度量價ノ法未ダ一ナラサルモノニ在テハ
困難ノ大ナル果テ如何ヤ實ニ非常ナルニ日本以此件ニ托ル
及テ土耳其ニ考ント云々シ而テ之ト比較スベキモノ此一件ニ
止ラカント如何セン困窮ルハ唯課租ノ法ノ一ニ徴租ノ法モ
亦同シ往時ハ農夫現来ヲ以テ納メ政府モ亦内國各地
ノ経費ヲ給スベキノナリシヲ以テ現来ヲ官吏士人ニ与ヘタリ
今日ニ在テハ外國ヨリ購来スベキ貨物夥多シレテ金貨ノ
多數ヲ要スルヲ租税金納ノ法ヲ設ケテ租税ノ農夫ノ
第入ヲ金貨ニ変ヒトセハ貿易ノ地互市ノ場及之ニ達スル
道路ヲ要シ且輸入ノ額ハ漸出ルニ至ラサルヲ以テ又信倚
スルヲ以テ堅固ノ銀行ナキヲ以テ此等ノ諸物具備セザ
ルハ金納ヲ為ス難ク而テ課租ノ區重ナルニ苦ムノ極ハ

起テ乱ヲ為スヲ猶ホ近時屢ニユレアリシカ如シ異金ノ農夫ハ平
常謹慎積蓄ヲ甘スト虽片改存中農事子ヲ表フテ後
ヲ奪ヒ去テ之ヲ京師ノニ利スベキ活費ニ供セントスル時ハ
頗ニ変シテ極夫トナルナリ租税過重ニシテ農夫ハ積蓄
財ナレ故ニ改良進歩ヲ行フ能ハズ其弊ヤ真ニ生財存
源ヲ乾涸セシムマシ是租法改正ノ殊ニ急ナル所以ナリ然レ
地租ヲ減スレト必ナク租法改良ノ商案ノ後ヲ増スヤシ
貿易ノ衰頹今日如クシテ又之ヲ稅ヲ重ラズルハ固シ之ヲ
減スルノ道ナリ
今財賦白室況ヲ連ルニ方リ先ツ論スベキ一事アリ日本ニ在
未タ會計ヲ云ニルノ法アラス近時政府ハ豫メ各年ノ出入
出入概算ヲ表ラシ布スト虽人民ハ實ニ之ヲ檢視スル
ノ術ナシ而テ其概算ヲ云ニマサルヲ以テ概算額ノ實

外務省

際如何ニテテ費消セシヤン増減果テ如何ナリシヤヲ知ルルニ常
 毎年一筆ノ部中ニ前年ノ過剩金若キナルヲ載スト
 臣民等計書ヲ以テ之ヲ澄明スルニ非ス後院或ハ官司
 アリテ之ヲ撥スルニ非ス其権力ハ大藏卿自身権力ニ
 應スルナリ且任令ニ大藏卿ノ言ヲ以テ真実ナシムルモ
 或ハ偽算ナキヲ保セス斯ノ如キ事項ハ偽算ヲ生シ
 易キモノナリ概算ノ中左者ハ一ハ地租ナリ且是猶ホ現米ヲ
 以テ納ルノ地サラス全ヲ以テスル地ニテモ算計ハ米ノ原價
 昂一石ノ時價ヲ以テス然レニ時價ハ不定ニシテ二四ノ下ルコトアリ
 四田已及及フコトアリ甲價或乙價ニ據ルニ從ヒ偽算ノ
 筆入一トトノ差ヲ生シ紙面ノ出入平均ハ変シテ空トナル
 コアリ
 千八百七十五年七月一日ヨリ 千八百七十六年七月一日マテ會計

年度ノ概算表ヲ見ルニ筆入合計六千八百五十八万八千二百六
 十六田中地租五千七百五十九万九千七百七十四割價
 百六十七万六千三百三十五田税四百七十四万四千八百
 三十七田官費一筆士族禄給等二百三十七万六千九百五
 田工子ノ筆入トテ鐵山鐵道電信製作印書等百
 八十四万七千七百五十三田ナリ以テ之ハ最要ノ筆者ハ
 前年計年及ト大差アリ前年及ハ四千四百六十万田
 ノ下ナリキ是亦前年ノ所算米石ノ價三四九十二割
 ナリシニ今年ハ四田四十九割ナルヲ以テナリ以テ割價便ナルハ
 年及ニテハ數卑クシテ庫部ノ損失ヲ致スヨリ政府ハ
 米ヲ騰出シテ其價ヲ騰貴セシメサルヲ以テ去年之及ハ
 總備空キノ害アリ政府ハ整正ノヲ和シテ已カ利害ニ從ヒ
 外國貿易ノ市場ヲ閉閉セサルヲ以テ其ノ勢ニ陥ルナリ或ハ

十
 務
 省

未熟ノ樹出テ許ルニ或ハ之ヲ禁シ及西後ハ法之先ハ此ノ原不
故ニ市場ノ妨害終ニ不豊トナリ人民ノ利ヲ害スル融々トシ
年ニ及テ富者ヲ補ヘリ

年出概算ハ六千八百四十九万八千五百六十四圓又四百三十四
万五千六百五十四圓債消却ニ供シ其外債ニ千九百
百十三万九千四百七十三圓トス千八百六十八年ノ改革ニテ
封地ヲ奪ヒタル士人俸祿千七百八十五万五千三百六十四
陸軍者六百九千五万四工部四百七十五万四等ニテ裁
入ノ差ハ八万九千七百六十四ナリ士族俸祿ハ年出四万
一十圓ナリ見ハツテ庫部ノ多ク如何せんニ重任タルヤ。解スベシ
方今理財ノ大難ヲハ此ニ在リ政府ハ之カメシニ疲弊シ若シテ
廢スレハ及亂ル恐アリ

公債合計一億四千二百二十八万九千五百八十四圓又四細左ノ

如シ外債ハ額金ニテ算リシモ利子七銖ト九銖トノ二種
合セテ千四百四十八万九百十二圓内債三千三百五十四千
八百四十一圓(浮債)ハ今日國內ノ空位四ノ一
之ヲ用ヒ金額九千四百八十一万三千八百九十四圓紙幣
ノ額所ノ如ク大ナリト雖モ金貨ノ備アルナシ何者
備金ハ二千四百四十一万六千二百五十七圓ニ過ぎスレ
然レモ亦皆融通ヲ止メタル所ヨリ成ルモノナリ
故ニ四億七千五百萬佛ノ空位金銀代テ世上流行シ
テ擔保者ナク抑リ政府ノ信ニシテ政府ノ信ハ之カメシ大減
スルモノナリ日本ニテハ紙幣ヲ用ルノ權即チ浸淫シテ人ヲ
之ヲ怪ムナリ唯外國貿易ハ金貨ヲ用ヒサルヲ必サレヨリ
大ニ直學ヲ金貨ノ減サテ招ケリ千八百七十五年上中
間日本諸港ヨリ年々金貨九百四十一万五千二百

七千四百八十元
財政の自費は漸く如きを見れば先づ歳出入の平均は必ず
ヤ且多ク平均スルヤノ問題發生スベシ當今ノ大抵は
上ニ記セル如く歳入ノ過剩ヲ平下ト爲氏ノ前年ハ四年
一千四百ノ不足アリト明言シ改訂ノ後産近キニ在リトテ
國庫空虚ノおはすは書ヲテリタル後ニ壯志ヲ馳セリ
我輩事ハ能クテ二部ノ是れヲ判別セスト是氏法若下
文ノ一事ヲ見ハ庫部ノ實況如何ヲ知ルヲ必ス千八百
七十四年概算表ニ豫備ノ金三千三十九万四千円就
知テテ又ハ八國債ヲ或ルモノトシ其中心ヨリ國債ノ利
より減セリ故ニ日本ハ猶ホ土身甚ク多ク旧債ヲ消セカ
ルヲ新債ヲ買フノおはるセリ 客歳ノ概算表ニハ
此利より以テ常費ノ部ニ列シテ常歳入ヲ以テテ支拂

ニ充テタリ、歳ニ正南トシテ是レは漸く解ヲ免レカ
合算ノ實況如何ハ由テ以テ察知レハベシ
歳出入ノ平均ヲ必ス保シテ後令ニ平均スルニ至ルモ
改訂ノ事業ハ未ダ全成セリト云フヲ必ス日年ノ既
改革ノ路ニ保シテ中止スルヲ必ス改訂ノ債主ト
干係既ニ保密ニシテ復タ四門ヲ閉チ旧時ノ孤立
復スル能ハス故ニ必スヤ國產ヲ増殖シテ以テ経費
ヲ補ヒ而テ其経費ハ外國ノ來往交通ノ内地ノ
改訂開張トテ全フスルニ足ラシムルヲ要ス陸軍ヲ
備ハ水師ヲ興シ民ノ教育ヲ盛ニスルニ益ノ本ヲ起シ
又時宜ニテ其遠シクテ身轉或は諸ト兵ヲ文ハ士
祿ノ問題ヲ決セラルヲ必ス之ヲ要スルニ益ノ前進改革
セカレヲ必ス而テ之ヲ力メシ金穀ヲ費サレヲ必ス不國

外務省

成地ニ墮チテ或ニ地立ヲ全クシハサルニ及ビシ然レモ
日ノ高市團用ヲノルニシテハサルニ及ビシ何事モ
際ヲ行ハントモハ~~其~~盛衰存亡ニ干スルモ経費
ヲ減スルノ外ナケレハナリ強クハ猶ホ家老者多キ人如シ
蓋、其投資存ヲ活用シテ以テ家入ノ増加ヲ計ルノ外
他道ナレ然レモ團富ヲ振張スルハ人民自ラ之ニ任スルヤ
否亦曾テ然ラズ(以テ後ニ述フベシ)故ニ政府自ラ
才先~~ノ~~スベク物ヤヒ大工大農若クハ大商トナリ(常ニ
人民ヨリ望ムナルニ非レモ)投資存ヲ費シテ團富ヲ削カサル
能ハス而テ是等非常ノ要費ニ充ツルキ(金)知ラズ
何處ニ向テ之ヲ求メキヤ租税ハ既ニ重クシテ富ガ乏
スルキモノナレ之ヲ増スラズ且租税鐵道電信等ハ
税金ノ増加ヲ期シテ僅キト~~其~~早急下~~其~~年出入額トヲ

見テ知ルベシ然レモ果テ如何ナク方法アリヤ曰ク團債ニ夫
由債ヲ着ルモ債主ニシテ者金債トモセサレハ其効
ナカルベシ故、外債ヲ買ハサルヲハ三回ノ外債ヲ
シテ利子還高ノ患ナカラシムルモハ~~其~~南ノ里園ニ其者
ヲ以テ政安金立ニシテハサルバカニス抵南ノカハ政府ノ
債ナレハ~~其~~債七千五百萬圓ノ成却ナル團~~其~~子~~其~~信ヲ
借リテ僅シ唯書入ノ一法アリテ存スルノ一~~其~~税関ハ既ニ千
百七千~~其~~年~~其~~東洋銀行ノ債ニ高ラタレハ
鐵道ハ千八百七十三年~~其~~東洋銀行ノ債ニ高ラタレハ
之ヲ用ヒテ僅シ故ニ夫ノ弊難不定ニシテ唯後東~~其~~利ヲ
如スルノ一物ヲ~~其~~懸山アルノ一~~其~~以我~~其~~懸山ノ~~其~~安
如何後東~~其~~團富~~其~~進加如何且懸山~~其~~如何~~其~~期終ヲ
屬スルニ是ルモ~~其~~編セントス

外務省

自富ハ諸條之ヲ以テ其ノ土地ノ豊饒人民ノ裕及漁人ノ
漁業ノ其ノ事具トシテ極スルニ地人金ノ三者ハ
國富ノ原チハ之ヲ畧徭セサルベシト云フ土地ノ面積二千八百
エタールナルハ前ノ地チト異氏且多ク前額ヲ倍セキハ
播キテ遠キニ存リ及リテ夏チハ一テ以テ稻田トスルニ一エタール
ハ十セウ養シテ牧羊ノ草場ナレト異氏人工ヲ以テ牧場
ヲ開キハキ地ハ五カエ板算ニ云ニ日本ハ一前カ毎
モ五斤ヲ出スルキニ年二千八百頭ヲ養フヲ倍シテ噴火
山ワリレ地ハ且豊饒地沃ナレト空手異氏國ナルヲ以テ諸條
耕作ニ並テ園セス草物ノ香味ノ厚ク改由多ク輸入
スル者モ昨チ者地ノ失フハ亦おナリ羊畑チハ多ク
産シ人民ノ富シテ摩ヤスモ用ヲ又カス又産額ハ知リ
難シト異氏輸出額ハ千七百七十五年上半年間ニテ

茶七百三十三斤桐子百十五万五千斤ニ及ハリ御ハ
國人ノ用ニ足ラズ樟樹蠟昆布海苔ニシテ唐人ノ用
ヲ且足ス日本ノ麻ハ物性ノ優スルマキナリテ熟市場
ニ於テ價位地産ノ上ニ出ルト異氏改由ニ輸スノ經費
多クシテマニラ及西ノ産ノ腐者ト頰頰ニシテ云ハ
人テロマテキタ改由ニ茶セシ病者ヲ被リシト云フ中央平地
亦郡之ヲ産セサルモノナリ昔ニ潮トナレテ貿易スルノトナラ
種ヲ持トシテ賣買シテグロウハニス及伊國ノ養シキ人ノ又
之ヲ好メリ又下キヨハ糸トシテ賣買スル異氏見日本ハ
亦産利多ク魚介ハ國民食物ノ大部ヲ占ム土地所
好ク豊シクニヨリ國人ノ食ニ足ラサルコトナリ
地ノ物ヲ産スルヤ斯ク好ク之ヲ代利利用スル天ハ里ヲ好

上
務
自

ソヤ元奉日奉人、田信、農ま、都令、天、偏、う、以、琴、敏、ミ、テ、
様、巧、温、和、ミ、テ、又、活、潑、ト、他、ノ、文、明、國、ノ、同、業、人、ニ、比、ス、ハ、大、ニ、
文、通、シ、易、シ、ク、其、性、勉、強、ル、者、ハ、活、潑、ト、剛、毅、ナル、者、ハ、
忍、耐、力、ト、云、フ、口、ニ、言、フ、心、ニ、要、シ、工、事、ハ、甘、シ、テ、之、ヲ、為、ス、ト、
臣、氏、其、常、役、以、ニ、步、後、夕、暮、ハ、己、カ、地、位、ヲ、高、ス、ル、ヲ、務、メ、ス、
(且、活、潑、強、ト、之、ヲ、呼、ル、カ、如、シ) 汝、本、ヲ、増、進、シ、テ、甘、積、積、家、ヲ、
以、テ、其、業、ニ、モ、先、見、ニ、シ、テ、結、隊、射、ヲ、ハ、輻、ク、之、ヲ、授、
業、ニ、費、ヤ、シ、日、用、既、ニ、欠、ク、所、テ、之、ハ、後、夕、甘、蓄、射、ヲ、務、メ、ス、
先、之、利、ヲ、獲、テ、更、ニ、大、利、ヲ、得、セ、ト、ス、ル、者、ナ、シ、凡、ソ、業、ヲ、工、人、ニ、托、ス、
ヲ、シ、テ、又、他、事、ヲ、就、カ、シ、ト、ス、ル、者、ナ、シ、凡、ソ、業、ヲ、工、人、ニ、托、ス、
シ、ハ、必、ス、足、多、ク、日、子、ヲ、費、来、シ、若、之、ヲ、留、ス、ニ、エ、テ、止、メ、シ、
ム、キ、ヲ、以、テ、之、ハ、己、カ、甘、セ、カ、ル、常、役、ヲ、執、シ、ヨ、リ、ハ、宿、早、ノ、口、
更、エ、テ、奔、ル、風、ナ、リ、夫、ノ、工、場、ヲ、見、ル、ニ、工、夫、或、ハ、烟、ヲ、喫、シ、

或ハ、徒、シ、或ハ、突、ヒ、偶、ハ、一、芥、ヲ、執、リ、一、石、ヲ、轉、ス、シ、徒、ニ、四、方、法、
ヲ、付、御、シ、之、廉、シ、テ、後、夕、暮、ノ、日、傾、キ、鐘、鳴、ル、ニ、及、テ、去、ル、又、
往、々、名、ヲ、定、メ、暑、雨、寒、雪、ハ、祭、祀、ニ、托、シ、テ、業、ヲ、休、ム、所、
アリ、夫、生、計、素、上、廉、ナ、リ、誰、カ、雨、ヲ、冒、シ、寒、ヲ、凌、ク、者、
ヲ、甘、セ、ヤ、一、箇、ノ、壯、者、都、テ、三、疋、テ、生、ヲ、營、ム、ハ、一、日、在、田、
本、貞、蔬、菜、ヲ、食、ヒ、陵、菜、ヲ、飲、シ、甚、ス、所、毎、月、ニ、三、四、十、
四、仙、ト、云、フ、キ、ス、冬、候、温、暖、ナル、ヲ、以、テ、田、夫、ハ、日、用、ノ、不、十、
五、ノ、墾、屋、一、疋、ヲ、以、テ、三、疋、ヲ、家、什、ハ、席、一、枚、靴、製、衣、ノ、陸、
器、或ハ、陶、器、ニ、三、三、止、リ、衣、ハ、本、綿、若、ハ、絹、布、最、領、ヲ、
清、拭、巾、用、ス、ル、ニ、過、キ、ス、常、苦、シ、テ、寒、入、ヲ、増、ス、モ、己、カ、益、多、ク、
サ、フ、シ、テ、庫、部、ノ、利、ヲ、為、ス、ヲ、多、ク、而、テ、田、臥、炉、烟、ノ、煙、ヲ、
ヲ、見、ル、ハ、何、業、カ、之、ニ、如、カ、シ、ヤ、富、内、ハ、着、属、サ、キ、ヲ、常、ト、マ、
富、者、僅、婢、ノ、シ、多、ク、ラ、サ、ル、ヲ、致、ス、ル、ハ、智、俗、能、ル、ナ、リ、卷、

十
卷

子ノ法行レテ親子ヲ他家ニよリテハルヨリノ主ハ大抵親子ヲ
シテニ人ニ止ラシク勤業ヲ第一満ルハ多ク業ヲ少ク家ヲ
守リテ長子ニ依リ長子ハ之ニ勤事シテ身ヲ終ラシム
上ニ遊ル所ハ即チ數百年來日本ノ國力ヲ開張スルノ
任アリシ人民ニ其方状ナリ下民ハ需用サテ自己及子孫ニ
利スルノ欲寡ク俄死セサルヲ以テ自ラ是レトシ人アリ居世
ニ在リ何何ヨリセシヤト問ハ夫ノ革命ノ紀死ヲ免シタル
有名ナル人集ノ多ク我生活セリト答ハハルヲ以テ自ラ安ス
是レ世間當生上ヨリ痛スルハ曾テ不幸ナル事ス大ニ其ヲ備
歎シ日走ヲ満受シ安逸セテ送ルハマニチエスター工場或ハ
勤勤ノ酒巷ニ在テ終日ヲ送り困苦常徳スル者ニ
優ル遠シ然レハ人生作工上ヨリ痛スルハ此皆余ヲ無ク生
計セタサテ所以知ルセシ也食料廉ナルヨリシテ工銀

甘クノ痛シク工事ノ利サテハ職ト莫ク之レ由ナリ音巧精緻
此物ヲ生スレバ仔細業除キ来ルハ屏使ハ競争スル能ハ
外國貿易ノ開ケシヨリ日本人民ハ曾テアラサリレ新器ヲ需
用スルニ至リテ而テ政府自ラ之ヲ勸奨セシモノニ似テ人
此急情ノ弊留テ務メテテ試シテ其手ヲ知アリシヨ
見ス改革者其言テ云ルハ「アリ曰ク喝セカニ重細亞人ハ
飲ラカサレメニト此言ヲ知暴ナリト云ル其言ヲラカルヨ
見ルベシ工業ノ具ニ至テハ機械ナク且工人ノ之ヲ買フ
能ワカンヤ製ノ善ク知ル所ナリ人カヲ脚タルハ馬アルハ馬ハ耕
作ニ用フレバ雪ラ運荷ニ供ス日本ノ島ハ猶ホ主人ノ如ク忍
耐性旧業吸ナレバ則チ業ヲシテ若役ニ堪ハス
民口二百有餘万數百年來國家ノ向明ヲ務メ三百年
間昇平無事ノ福ヲ享ケテ知ス此問ヲ以テ何ヨリ

ト
務
省

或レハタリヤ先人ハ後人ニ傳ルニ何ナレ遺業ヲ以テセシヤ試ニ
地上ニ就テ之ヲ見ルニ大ニ巧クシテ國盛ク彰ス。是レ夫ノ埃乃
希羅羅馬ノ沿革ヲ千載ノ下ニ表ス。若シ堅固ハ水道
堤路運河海港ノ如ク争テ修テ成セサルモノ強ト空シ
僅ニ疏直セル河川數則築造セシト云フハ單ニ開闢
セシト修スルニ止ル。然レ亦水造ノ寺社及諸侯ノ據テ以テ
獨善シ城郭ヲ存スルノ一實也。工業ニ利シム者ヲ標ク
ル日本ノ如クハソノ實ヲケル。西御舟諸國ホヨリ更ニ
舊レ先人ハ用ヲ中ニシテ至ラズシテ此等ノカクテ興ス。トハ
サリレカ。是レソノ蓄積セシ所、モノモ皆夫ノ遊手無常
今日猶ホ良民ノ重クシ人ノカクニ憂ヤサレタリ。眼ヲ
放テ今ヲ見ルニ煉瓦ノ高烟筒屋ノ大工場は皆燈
或ハ車ノ、後アリト云フ。等計ニ防ル時ハ経費員大ニシテ

或果ト相商セス工場ハ政府ノ投資助ケルハ久ラシテ例ルマク
停車場ハ費用金ノ利子ノシテ既ニソノ入金ニ十ノ倍ス。要スル
此等ノ工業ハ新ニ興テ増ス。ノ一節テ富ヲ増ハス。政府ハ
國富ヲ増スルニ振起シ米穀ノ増シ生産ヲ増シ且
貿易ヲ便シし製糸ノ工業ヲ盛大改良シ。制布ノ法ヲ興
ス等ノ事ヲ務メス。及テ自國ニ生セサルモノ或ハ洋製ノ如ク
廉價ヲ以テ生スル能ハサルモノヲ内地ニ製セントスルニ似タリ
上ニ關列者工業中他自產アルモノ今日ニ在テ高キ早キ
モノサシテ何者カ下ニ多ク輸タル運路ノ建築未タ。或テ
カレシヤリ
此物ノ改良ナキモ之ニ代テ金銀ノ資本アリト同ニ
金銀ノ流通スルモノ甚クサク。而テ其ノ人民之ヲ隆盛
スルニヨルト思ハレ。性ニ佳時封建ノ世各藩既ニ紙幣ヲ

用且貿易モ亦ラ米ヲ以テセシテ見ルニ金貨ハ元来多クナル
 カルシ方今ハ其額大ニ減シ由來ノ新聞紙文ニ之ヲ算ス
 ノ後ラ時キシモ理キキニ非ス故新紙ハ輸出額ヲ比較シ
 國家ノ優數ニ其息ヲ陳セリ其額ヲ見ルニ既ニ日本ノ
 金貨ヲ失ハルヲ知ルハ千八百六十八年ニ輸出
 平均ス千八百六十九年ニ至七年ハ輸入ノ輸出ニ違
 モノ三千四百三十三万二千三百三十四千七百七十
 十三年ニ六日差減スト其氏猶亞ハ大ニシテ千三百七十四
 十三四年ニ千六百七十四年ニ千二百六十五万二千七百三
 十四ナリキ且テ新中記者ノ説ニ從テ新紙ノ豫備金
 五十八百万四トシ又毎月二十万五千四ヲ鑄ルトナモ
 猶ホツト盡ルテ幾年ニ出テモ正策也ニ出テカルベキヤ
 容易ニ知レドモ

人必其計ヲ見公金ト成布トノ價は大ナクニテ五分ニ及ハ
 サルノ價異ニナルシ是日平人民ハ皇家ノ後章ヲ仰セリ
 其ハ其幣ヲ為ラテ夫ノ價造ニ易ク且往時厚ク價造セシ
 金貨ニ比シテ其價留ニ出ルモノナリ政商ニ之ヲ利シ其安心
 乘シテ金貨ヲ我ニ收メ政府ノ空因ニ増積セシム
 然レ人ノ安テ怪マサル今日ノ如キハ蓋シ之キテナルベシ後
 人漸ク往時ノ理ヲ知シ及ハ必ス其方スル所ノ信ニ早ハ
 空物ニシテ其後ヲ置テ其方ルヲ惜ルヤク物ト貿易ノ
 危多ク其勢スルニ其危難ノ極ニ至テ前知シテ
 方今既ニ金貨ニ苦ミ之ヲ鑄造スル方途ヲ求ルニ及ナリ
 銀行ヲ開クニ必要ナリトシ之ヲ鑄造シカ助者ノ忠告ニ
 ヨリテ其策相立ヤタリ日本人ハ一國ノ事ヲ知ラシテ
 金トナスラハト思ヒセテ所為ノ往時ノ理ニ及スルヲ惜ラ
 十
 務
 節

米團銀行ニ故ハ不足、融通ヲ往後シハト信セリ
殊ニ知云米團ハ物ヲ生シテ廣大ニ變テスレテ全ク日本ニ
業ヲ移サシムルニ似ス不而鞏固ニ爲ル人民ノ理財法ハ新
貿易ヲ開キテ擴充ヲ遂ゲシ加之種々ノ規程ニヨリテ
事ヲ修メル人民ニ通セサルヲ一新開帳故事ヲ引
キテ判テ日ヲ繕工アリ、ラフテ團ヲ命テ度々ガリウ
ノ夜ヲ裁スル時ニテ方條國規ヲ用ヒテ長短ヲ辨別シ
テ地國ヲ製成セシモ唯一ノ要字ヲ授ケシニテ所裁
ノ衣俸ニ合ハカリシト招事スウフト所裁ガリウニ
農起上點ニ神史ニ見ユ日年人ハ
恰モ英佛米等ノ如ク大ナル儲金場ヲ設ケテ金貨
市場ニ流注セシメテセシト星氏元來以團ニ於テハ自國
銀行ノ用單ニ金貨ノ價ト信トテ管理制スルニ
此ノ商ヲ金貨不足ノ地ヲシテ之ヲ生ヤムルノ力ナシ金貨

何ノ多儲場ニシテ且厚流ニ非ス故ニ金貨ノ元率ニ乏キハ銀
行無カトテ且行ヲ不徳ニ爲シ或テ危險ヲ招クモノ
ナリ是等ノ問題事案ニ於テハ尤モ自國ノ理ニ若クテ危
再スウフトノ事ヲ引カレニ岸ニシテ完備ヲ裁スルハ古
難シト聯、銀行ノ倒産以テ其遺トナスベシ此保銀
制度ト衰微トシ由リ貿易ノ凋弊スルハ荷出入額
ノ減スルニヨリテ明カナリ千八百七十二年ニ五千四百二
千九百七十三百ナリシカテ千八百七十四年ニ四千四百三十二
万五千二百六十四ニ減シ千八百七十五年及六年ニ三
更ニ減サテ加ヘタリ我、洋商等ハ貿易凋弊シテ振起
セサルヲ見徒ニ催テテ回、開港ノ初ノ商賈王侯ナリ
レノ日ハ一初ニシテ巨額ヲホタリシテ追思惜スルノニ其三七必ス
豫ノ鶏ハ常ニ金印ヲ放下スヤチヤ問ハカリシニ悔元

外務省

ナルヤレ日本ヲ去ル者多ク討ヲモシシ者アリ倒産セシ者アリ且倒
産ヲ恐ルル者アリ其初日本ニ跨ル銀行其ハ資本五
ニテ千八百七十三年マニハ利益五十四万二千四百ナリシモ七十
四年六千四百四十下リレテ社員ニ廣告ヨリ其株
權者ハ大ニ價ヲ失ヘリ人アリ百五友ニ對シ貿易ノ
早手既照ハ危名ナリト云ヒシニ其友者ハテウテ不期至
レリト

今夫日本ハ資本財ノ蓄多ク貿易ノ具乏クシテ自國天産
富ヲ開ク能ハス果テ其ノ永遠以知得ニ止ラ上良スル
能ハルヤキカ曰ク何ソ其能シヤ之ヲ治スルハ法ハ簡ニシテ
見易シ日本ニ欠ク所ノモノハ工業ノ資本ナリ國內ニ
之ナキヲ以テ外國ニ求ムルベシク政府ハ金主ニ依ラサルガ
ラズ改メ金主既ニ印度伯西切其他ニ移テ為セシ加ク

ス金ヲ濫用スル國ヲ致ス所ナリ然レモ兵ノ工作家米植民
等ハ徒ラニ金ヲ貸スベカラス必ス抵當ヲ要スベシカノ抵
當ハ金主ヲシテ自ラエテ其力ヲ展スルヲ得セシムルナ
リ以テ其力少ク國ノ富自ラ一新セシハ其例ナラズ新ノ
ナハ人民ノ幸也蓋長シシ生計ニ困セザルハ其財アリニ至リ
日本ノ資本力飛起シテ人ノ信依ヲ求メタスベシ昔モ之ヲ得シトセハ
國ヲ富カサルベカラス民法ヲ制定シ外人ヲシテ國人ト同權
ナラシムル兵備ノ如キ商法律ヲ設クベシ昂今今日後啓
ノ四門ヲ洞開スルニ望ム是日本ノ背セサル所ナラズ何
セン曰其人ハ印度ノ輻ニ懲リ埃及ノ危ヲ畏レ國家ノ
獨立ヲ傷セシテ予テ慮リ和ニ政治上ノ早手既ヲ變セシテ
經濟上ノ困難ヲ救ヒ且特ニ救濟ノ切ヲシテ日本人ノ
士歸セシメシテ其力ヲ得メリ

日本里テ外國ノ金ヲ借ラズニ農工ヲ振起スルハサレハ
 鑛山ヲ書入ルノ外他方ナシ世人未由國鑛山ノ富ニ
 事何ナリヲ知セズ石炭金屬鑛銀銅ノ多キハ人ノ
 疑ハレ所ニシテ我有スル所表中所載ノ鑛山百幸所ニ
 下ニナルニヨリテ見ルニ位價ノ如キハ大ニ疑ニキモナリ
 プランケット氏ハ英國ニ伊館ノ書記者ナリシ中樞
 名大ヲ以テ鑛山ニテスル者ヲ著セリ鑛山ヲ精治セシハ
 此書ヲ以テ冠トスナリ下ニ記スル所多クハ中ヨリ採
 ナリ古山鑛ノ外ハ肉團ノ諸鑛皆廢法ヲ以テ
 採掘ス日本ハ井ヲ穿ツナク水ヲ降クハ法ハ唯竹製
 ノ抽水機ニ止ラテ大抵向採ノエヲ弁ルニ至ルニ甚早シ
 鑛金之ヲヨリエ可ノ規模狹サリ慢鑛アルベト
 惟想フノ地ニ穴ヲ穿ツニ後筆ノ後方又出ナシ

出後：同ヲ穿テ若鑛物ニ撞着スルハ工ヲ注中行ヒ否
 他處ニ新洞ヲ穿テ鑛ナケルハ又去テ他ニ行ク而テ此書ノ
 同ハ僅令ニ幸吸ノ鑛物ヲ得ルモ直ニ在ケテ鑛山トス見ル
 鑛山表長フレテ外人ヲ驚シ日本ヲ侮認シテ不真ノ
 エルコトト圖トナサレル所以ナリ然レ産額ヲ見ル時ハ
 全ク相反スル感ヲ生シテ佳局日本ハ舊成ノ鑛山多ク
 レハ鑛産ニ富クノ諸國ト伍スル然ハスト
 十四年鑛産ノ價三百六十八万七千二百七十五圓ニシテ
 石炭ハ一噸ニ價一圓ニシテ

鑛山表長フレテ外人ヲ驚シ日本ヲ侮認シテ不真ノ
 エルコトト圖トナサレル所以ナリ然レ産額ヲ見ル時ハ
 全ク相反スル感ヲ生シテ佳局日本ハ舊成ノ鑛山多ク
 レハ鑛産ニ富クノ諸國ト伍スル然ハスト

石炭	三十九万噸半	五圓	百九十五万圓
銅	三千	三百	九千万
產量	一噸ノ價	洋銀	

十
 百

鉄	五千	三十	十五万
鉛	百七十五	百十五	二万二千七百五十
錫	七噸半	四百	三千
銀	半千一	四十	三十九万
金	四百	六十	二十五万
石油	五十七万五千升	四錢	二万三千
合計			三万六千七百七十

(備考) 以上表中ニ硫黄水銀マンチモニ一寺ハ代
 セスワノ産物知レサハ一升ハ一リットル六十一
 九サンチリットルニ南ん

地中ノ産物所カ権ヲ行使スル法典ハ未ダ之アラスニ
 前ノ我法ニ依ヒニ三ノ規則ヲ設ケタレバ地方ノ慣習
 ヲ破ル能ハスワシキ事ハ要ラズ一却外人ノ採掘ニ

干スルヲ禁ズテナリ外國人ニ株權者カヲ以テ採入ノ權ヲ
 以テ採入スル權ヲ所カ人ニ及ボ外人ヲ以テ有利差ヲ与
 シタル者アリトシテ採掘ノ權ヲ受收セシムル間採掘者ニ自ラ
 政カ技術ヲ用ヒタルハスト長年結約ノ時必ス採
 長ニ事ヲ贈リテ莫モ官業ニ干セサルキ一及採料ノ
 抵当トシテ採掘ノ權ヲ收メサルキ一ヲ設セシムル間採掘者
 モハ採掘ノ權ヲ受收セシムル地上所カノ權ハ地下所カノ權ヲ併ス
 ノ原根ハ未ダ此間ニ行ハレズ人若シ採掘ノ權ヲ見出スアレハ
 官ニ乞フテ供出ノ存ヲ毎率工員金若干ヲ納ルベシ
 其權ヲ讓ヒトスルハ工部卿ノ許可ヲ以テ可トス
 ル人ニ讓ルベシ採掘ノ見出ス者ハ及令シ其地主ナラズ
 モ必ス借居人タル權アリ但地主之ニ是ツノ權ヲ主張ス
 ル時ハ例外ナリ且其金ハ各採掘者異リテ定額アルナシ

無^レ長^ク必^ズ一^ト多^クなり毎^ニ三^日(鉄ト石炭^ニ四^半)ノ税ヲ收^メ
サ^ルガ^ラズ^ニ且^ニ親^ク共^ニ勸^メ奨^ムル^ヲ一^時之^ヲ停^止ス^ルキ
千^ハ百^七十^三年^ノ法^ヲ實^施セ^ント^セハ^ハ技^術士^ヲ要^スベ^ク
改^善ハ^ハ容^易ニ^シ可^ク要^スル^ヲ術^士ヲ^ハ在^ルカ^ラズ^ニ鑛^山監
視^ハ法^ハ一^齊ナ^リ且^ニ益^サク^ル人^民ノ^起テ^ラ發^見セ^ス
及^テ之^ヲ妨^害ス^ル者^ハ罰^{アリ}フ^ラシ^ケト^氏ハ^ハ後^ヲ發^見
ニ^臨テ^ハ早^ク鑛^賦ハ^法度^ニコレ^{アリ}ト^雖長^ク今日^ヲ以^テ
之^ヲ論^スル^ニ地^位產^額等^ヲ好^クシ^テ多^ク數^ノ度^金ヲ^用フ^ル
モ^ハ危^カラ^ズモ^ハ蓋^シサ^カル^ベシ^好鑛^アル^ハ必^ズセ^リト^雖氏
是^レ恐^クハ^ハ特^例ニ^シテ^ハ考^通ナ^ラカ^ラズ^カ仔^細ニ^計算^并シ
奉^シハ^ハ今日^マテ^世人^日々^鑛山^ノ旨^ヲ後^リト^大
實^ニ過^ルヲ^見ル^ト
此^論確^切ニ^シテ^ハ初^善ナ^リ今日^定論^ノ要^領ヲ^以ル^モト^スル^ハ

是^レ以^テ之^ヲ觀^ルニ^日本^ノ鑛^富ホ^シ田^野荒^蕪ノ^如ク^シ淺^ク
金^ノ流^注ヲ^待ツ^モナ^リハ^クト^ル雖^ハ日^本ノ^モ流^注
シ^ハベ^キト^猶ホ^他邦^ニ亦^テル^カ如^ク唯^之ヲ^引カ^ルベ^カラ^ズ
且^ニ豆^原ノ^如ク^遠キ^ヲ見^ルナ^リ鑛^山ノ^現出^ニ就^テ之^ヲ
又^ル書^ヲ入^レテ^ハ傳^ヲア^ラズ^トセ^ハ必^ズ金^主ヲ^シテ
自^ラ之^ヲ管^理シ^テ方^今キ^タ右^セザ^ル價^ヲ發^見セ^シノ
カ^ルヲ^以ス^ル不^レ推^高ハ^空ニ^屬ス^ル故^ニ我^レ昨^年ハ^ハ
和^ヒ上^文ニ^記セ^シ所^ノモ^ハ日^本ノ^國ヲ^開ヒ^テ金^主ヲ^入
ル^ニ要^スル^ニ論^及セ^ルガ^ラズ^而テ^ハ是^レ改^善ノ^要ナ^リ
皆^ク之^レ所^ナル^ヲ妙^何セ^ンヤ^然長^ク方^今ノ^國海^邊
事^務ハ^傍觀^シハ^ズキ^モノ^非ハ^ハ或^ハ國^ノ多^ク損
多^ク外^國貿易^ヲ務^メテ^ハ古^時ノ^孤立^ニ復^シ見^ル者^ハ
ト^ナント^セシ^開明^國ノ^地位^ヲ奪^ルカ^ラズ^ハ誠^ニ可^ク

易自由百工、獲多、各國連帯、事務及了、一切、千
係、甘受、カニ、者、一、出、テ、サ、バ、ラ、ス、此、問題、ハ
代、事、ニ、違、ク、ン、ガ、一、要件、ニ、シ、テ、密、ニ、外、交、ト、相、干、
ス、ン、ヤ、衆、ノ、疑、ハ、其、所、デ、リ、外、交、ノ、形、勢、ハ、我、輩、一、持、サ、ニ
他、日、ニ、痛、及、セ、ン、ト、ス、モ、ナ、リ

シヨールジュブリスケ

十
務
官

